

『学科専攻別3つのポリシー』

〈学位授与方針〉〈教育課程の編成・実施方針〉〈進学生・編入学生の受け入れ方針〉

1. 哲学科の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

哲学科は、常に探究心を持って自然と人間について根本から探求するとともに、世界や社会の現実にも関心を持ち、他者との対話や他者の理解を通じて、自己のあり方や生き方を主体的に追求することのできる人間を送り出すことを目的とし、以下の6つの力を身につけることを期待します。

1. 真・善・美・聖などの根元的な価値について洞察する力。
2. 古代から現代まで、また世界および日本で展開した哲学、思想、宗教等に見られる多様な世界観や人間観について理解する力。そのために必要とする古典語（日本語を含む）や外国語の運用能力。
3. 社会・道徳・法などについての根本的な理解にたつて、人間のあり方を考察する力。
4. 理論的・自立的に思考し、論理的に自己を表現する力。
5. 自己と他者を正しく理解し、他者と対話しようとする開かれた態度。
6. 現代社会に対する現実的関心を持ち、公共的観点で考察し、判断する力。

『学科専攻別3つのポリシー』

〈学位授与方針〉〈教育課程の編成・実施方針〉〈進学生・編入学生の受け入れ方針〉

2. 哲学科の教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

哲学科では、以上に掲げた能力や資質を身につけるため、5つの基本領域を定めています。ただし、哲学としての全体性や総合性を重視する観点から、学生をゼミに分属させることなく、全年次を通して、どの領域の科目でも履修ができるようにしています。

- ①西洋哲学・倫理学
- ②美学・芸術学
- ③キリスト教学・宗教学
- ④日本思想史学
- ⑤生命・環境・社会の哲学

主な専攻分野科目は以下の4種類からなっています。

1. 導入科目（「哲学入門Ⅰ・Ⅱ」） 哲学を学ぶための基礎的な力を養います。基礎的知識と視点を獲得し、読解力や文章力を身につけるため、4単位を必修としています。
2. 概論科目（概論・思想史等） 各基本領域の基礎的な事項を扱い、学習の土台形成を目指します。
3. 特殊講義科目（特講等） 諸分野についての各論の講義で、関心あるテーマについてのより深い理解を目指します。
4. 演習科目（演習） テキストの読解や問題の分析を行い、発表や議論を通して、受講者同士で新たな知見を見出し、共有します。哲学的な分析力、表現力、対話力を重視する観点から、演習科目 12 単位以上を選択必修とし、かつすべての学年において演習科目を履修することを義務づけています。

これら以外に、ギリシア語・ラテン語などの古典語を学ぶ科目が置かれています。哲学科では、自由で主体的な学びを尊重するために、2年次必修の導入科目以外には、年次指定などは設けず、それぞれの関心に応じて、いつでも自由に履修することができるようになっています。

2年次では、導入科目（「哲学入門Ⅰ・Ⅱ」）によって、哲学全般の基礎知識を身につけ、また論文執筆や哲学的対話の方法を学ぶようにしています。また、全体的・総合的視野を養うために、複数の基本領域にわたって概論科目を履修するよう指導しています。

3年次では、専門的な講義でより深い知識を身につけながら、演習では中心的な役割を担い、テキストの解釈やプレゼンテーションの力を高め、対話する力を磨きます。また、論文執筆力を高めるために、担任の指導のもと、学年レポートを執筆します。

4年次では、「特殊演習」（卒論演習）でメンターの指導を受けながら、学問的な文章の書き方を学び、文献研究や資料調査を進め、卒業論文を執筆します。

『学科専攻別3つのポリシー』

〈学位授与方針〉〈教育課程の編成・実施方針〉〈進学生・編入学生の受け入れ方針〉

3. 哲学科の進学生・編入学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）

哲学科では、知ることを愛し、固定観念や社会通念にとらわれることなく、理論的、自立的に思考する能力と、他者に対する開かれた態度を身につけようとする人間に入学して欲しいと考えています。また教員養成課程においては、幅広い視野を持ち、総合的思考力を備えた社会科、公民科、地理歴史科、宗教科の教員を目指す人間を求めています。編入学についても、同様の観点から、哲学への関心や志望動機を重視して選考を行います。

高等学校では、以下の様な学びを大切にしたいと考えています。

1. 国語、外国語、社会から数学、理科にいたるまで、すべての教科を通じて、ただ細かい知識を学ぶだけでなく、世界、自然、社会、人間について、根本的な原理や構造に対する関心や問いを育む。
2. 現代国語、古典、外国語（英語）を問わず、論説的文章と文学的文章の両方について、表面的な読解に終わらず、納得のいくまで考えながら読む習慣を身につけ、また、文献が生まれた背景（歴史、文化、思想など）にも関心を持つ。
3. 国語や外国語の学習を通じて、文章力・表現力の基礎を養う。そのためにも、哲学書に限定する必要はないので、幅広い読書を心がける。また、様々な考えを持つ他者との対話の機会を持ち、自分の考えたことを的確に表現する文章力とプレゼンテーション力を磨く。
4. 与えられた知識や情報をうのみにせず、論理的根拠や客観的根拠を確かめる習慣を持つ。また、与えられた学習課題に対して既存の答えを出すことに満足するのではなく、問題を掘り下げ、前提を疑う態度を養う。学校での学習だけでなく、日常生活や社会生活においても、固定観念や社会通念にとらわれることなく、幅広い関心を持ち、自分の頭でものを考える習慣を持つ。